

知的障害学級で行う総合的な学習におけるインターネットの活用および情緒障害の遠隔教育

三芳町立三芳中学校 溝口文雄

ホームページ：http://www7.ocn.ne.jp/~miyoshi/j/

キーワード 中学校，特殊学級，総合的な学習，自立活動

1. インターネット利用の意図

(1) 総合学習におけるインターネット利用

知的障害を持つ生徒にとってコンピュータを活用することは難しいが、活用方法を工夫することによって障害が重い生徒もコンピュータ教育を行うことができる。だが、文字情報中心のインターネットは知的障害を有する生徒にとって高い壁である。障害のある生徒のインターネット利用を総合的な学習の時間の調べ学習の中で行うことで、高い壁を乗り越えて学習の道具としての活用し、豊かな学びを実現しようと考えた。

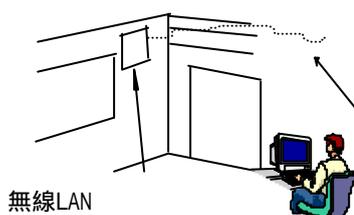
(2) 情緒障害の生徒の遠隔教育に対する指導の可能性を広げる。

学校に適応することが難しい心因性の情緒障害を有する生徒が、心理不安などから集団参加場面を回避することが多いため、CCDカメラで学校行事を撮影し、リアルタイムの映像を見ることで集団の活動場面に参加する意識が持てるようにしたいと考えた。また、学校に登校できない状態が続いた時にE-mailによる教育相談を実施したり、ホームページに学習するページを用意し、家庭学習の幅を広げようと試みた。

2. 総合的な学習の時間におけるインターネットの利用

(1) コンピュータ設置事情 ～ 実施環境 ～

校内のインターネット接続可能なコンピュータ設置状況は、コンピュータ室に22台、職員室、学校図書館に各1台ずつ設置してある。しかし、本学級からインターネットに接続する環境が必要なため次のように配備した。



コンピュータシステム (2台のノートパソコン)
ネットワーク (校内無線LAN, 無線アクセスポイント, 有線LAN)
周辺機器 SHARP製CCDカメラ CE-AG07 2個

有線LANケーブル (職員室から引く)

- ⑦職員室のハブから有線LANを本学級まで設置する。
- ①本学級の壁面に無線LANアクセスポイントを設置する。
- ⑦本学級内に2台のノートPCを配備する。

無線LAN
アクセスポイント

【校内のライブ中継】～ 体育館との情報のやりとり～

体育館までの電話線がなく、有線LAN、無線LANアンテナの設置は予算不足のため、PHSを利用したライブ中継を行う。

- ⑦ノートPC1台を体育館に移動し、CCDカメラで行事を撮影する
- ①PHSを使いビデオメールを配信する。(ストリーミングライブ放送ではない)
- ⑦教室のノートPCで放送を受信する。

3. 総合的な学習の時間における指導計画

表1

学習過程	学習内容
基礎学習	前期：将来の職業 就きたい職業調べ(インターネット等で調べる)
調べる	テーマの設定, 調べ学習(職場見学)
体験する	職場体験実習
まとめる	まとめ, 発表準備(実習のお礼の手紙)
発表, 評価する	文化祭で総合学習(前期)の発表をする。 前期まとめ(クラスで感想発表)
調べる	後期：上級学校調べ 学校調べ(インターネット等で調べる)
体験する	養護学校3校見学。 見学のお礼の手紙, 卒業生を囲む会, 進路講演会
まとめ, 発表	まとめ ホームページでの発表

表2

学習過程	学習内容
基礎学習	テーマを知り, 必要な知識と方法を学ぶ。 将来の職業について考え, 職場における体験学習を行う。
体験する	
テーマ設定	「東武伊勢崎線の働きについて」インターネットなどを使って調べ学習を行う。
調べ学習	パワーポイントで学年発表する。
まとめ	
発表する	学習したことを評価(自己, 相互, 教員)する。
評価する	

E スクエア・プロジェクト成果発表会

(1) 総合手金学習の時間の指導計画(表1)

進路学習として、前期は職業、後期は上級学校について学習し、調べ学習でインターネットを活用した。職業では調べることがかなりあったが、上級学校はホームページが少なかった。

(2) 通常学級の総合的な学習の時間に参加する生徒の学習内容(表2)

通常学級の総合的な学習の時間に参加している生徒は昨年度からの参加である。今年度は職業について考えることが学習テーマであったことから、自分の好きな電車をテーマに学習を進めた。

3.1 成果と課題

コンピュータは書字能力(文字を書く力)の弱い知的障害の生徒にとってキーボードを覚えればきれいな印刷文字を自力で作成することができ、信号や買い物学習などのあまり失敗が許されない場面をシミュレーションで何回も練習できるなど効果の高い学習機器である。しかし、インターネットは、知的障害の生徒にとって苦手な漢字の多い活字だらけの教科書と同様に活用が難しいイメージがある。そのため、ホームページ読み上げソフトや、ホームページふりがなソフトなどを用意してインターネットを活用した。それにより活字は多いが画像が多い情報であることから、一人で情報を集められるようになってきた。また、学習が進むと色々なサイトから必要な情報を選択し、コピーすることができる生徒も出てきた。

(1) 本学級における総合的な学習の時間におけるインターネット利用の効果

(ア) 職場見学後にその会社のホームページを見たが教員が読み始めるとみんな熱心に聞いている。体験と関連した内容は学習意欲を高揚させる例であった。

(イ) 上級学校調べではあまりインターネットが活用できなかった。ホームページを掲載していない学校が多かった、本学級の上級学校調べのまとめをホームページに掲載し、他校でも役立てられるようにした。

(ウ) 職場実習後にお礼のメールを送ったところ社長さんに感激の謝辞をいただく。生徒のメールを早々と返信することの効果を知ることができた。

(2) 通常学級の総合的な学習の時間に参加する生徒のインターネット利用

ホームページに記してある漢字を半分も理解できないが Web 検索の過程でいくつかの漢字を覚えたため必要な文章の概略を理解することができ、わからなければ質問して覚えていく。国語の学習ではなかなか覚えられない漢字でも、自分の興味のあることに直結すると学習意欲が飛躍的に向上する実例である。

今回の実践で障害が比較的軽い生徒のインターネット利用が可能であることがわかった。これからは、すべての生徒がインターネットを利用できるような学習の展開を創造していきたい。

4. 情緒障害生徒の遠隔教育におけるインターネットの利用の指導計画

(1) 校内行事のライブ中継

本校は各教室用のテレビやテレビ用の放送設備がないためライブ中継ができず、体育館などから教室にPHSを媒介にしてビデオメールを発信し、次第に他の生徒に慣れていくような心理適応を進めるようとしたが、システムのアクシデント中に登校できない状態になった。3ヶ月後に登校できるようになると、すぐに学校行事や集会に参加できるようになった。そのため、儀式的行事をライブ中継する必要がなくなった。しかし、他のクラスとの交流給食の時間に交流に行けないため、ネットミーティング給食を計画した。ネットミーティング給食は交流先のクラスの生徒と簡単な会話をすることで、交流クラスに慣れていこうとした。ミーティングに参加してくれた生徒は「たまには一緒に食べようよ。」と声をかけるが、照れくさそうに断っていた。ネット給食を重ねることでその気になっていくことを期待している。この方法は給食時の数分間でおこなうため互いに負担が少ないことが利点である。これにより廊下ですれ違ったときにお互いに声をかけ合えるようになってほしい。

(2) 不登校時の自宅学習の充実

心因性の情緒障害生徒の不登校状態が進むことの対策として、学級のホームページに学習ページを掲載して自宅でも学習を進めるようにしたり、E-mailによる教育相談に応じるなど遠隔教育を実施を実施した。各家庭ではまだインターネット環境が整備されていなかった。しかし、ほとんどの家庭には携帯電話があり、携帯からメールを送る、iモードのコンテンツを利用した経験がある家庭もあるため、本校のホームページにiモード用、J-スカイ用のページを加えることにした。現在は全家庭に知らせられる段階に来たが、学校は直接の相談業務ができる体制ができていることやコンテンツの利用に慣れていないため、ホームページへのアクセスは少なかった。

4. 成果と課題(学習意欲の向上等の成果、今後の課題)

(ア) システムがうまく作動しない状況に見舞われたが、少しずつインターネットを利用した教育活動が軌道に乗り始めた。インターネットに接続していない家庭が多く、携帯電話からアクセスできるようにしたが、各家庭のニーズに応じたシステムを考え、途中の計画を変更しながら本校の実態に応じた方法を模索することが大切だと感じた。

(イ) 行事への参加はライブ中継を実施する前に解決したが、次の課題である交流給食の対応策としてネットミーティング給食へと切り替えることでネットの活用の幅が広がった。取り組み始めた課題であるが、新しい出会いが期待できる方法である。精神的な負担が少ないことは教育相談的な配慮を要する生徒に向いていると思えた。

課題は、校内のシステムが脆弱であるためライブ中継できないため、有線LANや指向性の無線LANアンテナなどの設備を充実させることである。